週刊NIE（エヌアイイー）

家族で読もう！

新聞で学ぼう

⑥ 高校

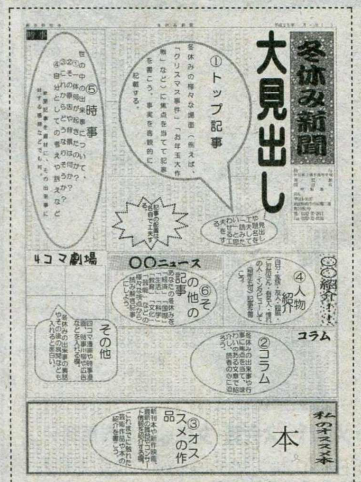
情報収集力を育てる

横手高定時制（横手市）

横手高校定時制（横手市前郷）は、国語科と進路指導を中心に新聞を活用しています。NIE実践校の指定を受けて2年目で、生徒の情報収集力や考えを伝える力を育成しようと取り組んできました。

国語科では昨年、生徒が選択して履修する「国語表現」の授業で新聞を使いました。秋田魁新報社の記者から紙面レイアウトや記事の特徴を学び、生徒がテーマを決めて取材。記事執筆と紙面製作を進めました。

伝統工芸に興味があるという遠山智大さん（3年）は、仙北市の角館樺細工伝承館で職人に聞いた話などを紙面にまとめました。「必要な情報を聞く難しさと、記事の信頼性を確保するために情報源を明確に示す大切さを感じた」と話します。



全校生徒への課題とした新聞製作で、教員が示した紙面例

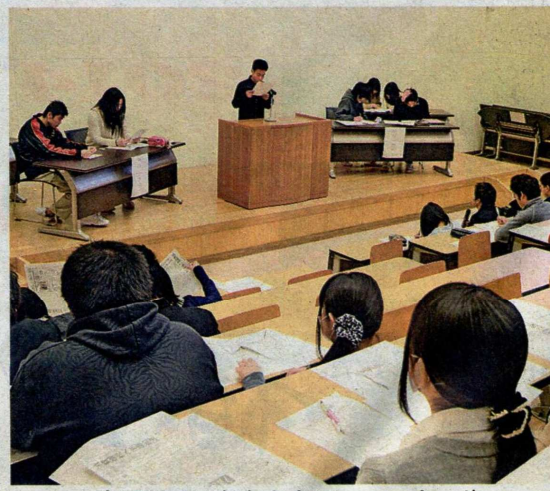
NIE教諭は「新聞製作を通じて、考えを伝えるための表現方法を身に付けてもらいたかった」と振り返ります。取材によって、幅広い人とコミュニケーションを取る経験を積んでもらう狙いもありました。

新聞製作は、全校生徒への冬休みの課題になりました。身の回りの出来事や趣味を紹介したり、話題になったニュースについてコラムを書いたりと、個性豊かな新聞が集まりました。

「国語表現」では、記事を使ったディベートの授業も行いました。生徒が新聞から議題となるテーマを探し、関連する記事を収集。今月19日、全校生徒の前で代表者によるディベートを実施しました。

生徒は新聞から集めた情報をもとに論を展開。「消費税8%増税に賛成か反対か」のテーマでは「増税は社会保障の充実につながる」「景気が悪化し、暮らしにくい国になる」などと主張しました。

指導した小川康講師は「新聞から情報を集めることに、生徒が積極的になってきた」と手応えを感じています。今後は、自分の考えを掘り下げる力をさらに伸ばしたいといいます。


今月19日に行われたディベート。生徒は新聞記事をもとに議論しました

進路指導でも、情報収集の力を高めることに力を入れました。全校生徒が毎月10本の記事を選び、意見を書く「進路スクラップノート」作成を継続。2～4年生は自分の希望する進路に関連したテーマに沿って切り抜きました。

松江教諭は「進路に関する生徒の情報量は少ない。インターネットだけではなく、さまざまな情報収集の方法を知る必要がある」と指摘します。幅広い情報を集めて判断できる力を育てるために、新聞が役立つと考えています。

秋田南高（秋田市）

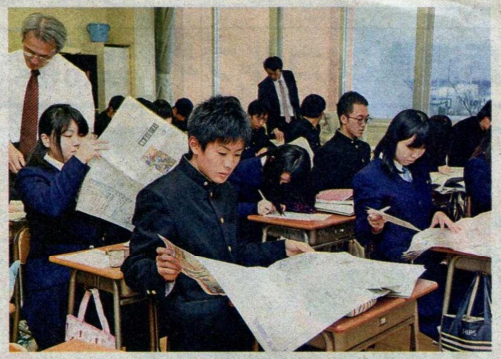
各教科での活用模索

2013年度からNIE実践校となった秋田南高校（秋田市仁井田）は、多くの生徒が進学を志望します。初年度は「進路実現につながる新聞の活用」をテーマに、各教科で利用方法を探りました。

1年生の「現代社会」では、需要と供給を学ぶ授業で記事を使いました。三浦義則教諭が、複数の記事を用意。それぞれが報じた出来事によって、需要と供給がどう変わるかを考えました。

生徒は「県職員のボーナス減少」「新型iPhone発売」といった記事から、人々の収入や世間の流行、消費税率などが需要と供給に影響することを確認しました。

国語科や理科でも新聞を使ったほか、「総合的な学習の時間」を中心に記事スクラップを行いました。スクラップは漫然と記事を集めるのではなく、情報を比較して思考を深める姿勢を重視しました。



三浦教諭は「生徒たちは、『考える材料は人が与えてくれる』と受け身の姿勢になりがち。新聞を使うことで、主体的に情報を集める意識を身に付けるきっかけになったのではないか」と話します。

「総合的な学習の時間」で新聞を広げる生徒

NIEは、多彩な教材づくりに取り組むための教員のトレーニングにもつながりました。国語科の加賀屋俊悦教諭は「意識して新聞を読むことで、さまざまな教科で活用できると気付いた」と、実践初年度を振り返ります。2年目はさらに教科の幅を広げ、学力向上につながる新聞活用を目指します。（三浦ちひろ）

＜「新聞で学ぼう」は今回で終わります。4月以降、NIEの取り組みを随時紹介します＞

秋田名物！きりタン君 504

絵・作 こうまそうすけ